

「男性介護者」との出会い

2021年6月15日（火）
社会学部 コミュニティデザイン学科 大原ゆい

自己紹介



- ・専門
地域福祉論、ボランティア論、社会福祉士
- ・テーマ
地域で生じる諸問題を解決するための市民と専門家の協働のあり方についての研究
地域活動の担い手づくりに関する研究
ケアするコミュニティの形成についての研究
- ・フィールド
家族介護者支援（男性介護者支援）
住民主体のまちづくり計画作成 など

「男性介護者」とは誰か？

「男性介護者」とは？

- ・介護する男性＝ホームヘルパーや介護福祉士など介護・福祉の現場で働く男性専門職のこと？
- ・今回、テーマとするのは、専門職としてプロとして働く介護労働者のことではない。家族、妻や親、場合によっては子どもといった自分の身近な人のことをケアする男性、「家族介護者」としての男性のこと。
- ・在宅で家族を介護する男性は、実数で100万人を超え、同居の主たる介護者の割合で見ても30%を超えている（厚生労働省「2019年国民生活基礎調査」）。

社会問題となった家族介護

大分県 朝日新聞 2019年1月11日 朝刊 23ページ

認知症の母殺害 起訴内容認める

大の67歳被告 初公判
昨年8月、大分市内の実家で母親を殺害したと、甲斐孝彦(仮名)大分市10日、大分地裁(有賀真博)で起訴内容を認めた。検察側は冒頭陳述で、母親がアルツハイマー型の認知症と診断されていたと指摘。犯行当日、母親が外出した。支度をしたことから甲斐

被告が制止し、「周りの人に迷惑をかけて家族を振り回す。暴力沙汰を起すのじいじではと悪戯して殺害した」と主張した。検察側によると、母親は昨年5月に認知症と診断され、7月に要介護認定を申請したが却下された。甲斐側は母親には認知症が原因の妄想があったとし、二人で迷惑をかけたのではないかと主張し、甲斐被告が殺害後、自ら報知して自首が成立しているとして減刑をよう求めた。(小森重)

介護殺人 加害者7割が男性

過去10年分析 孤立・ストレス
介護殺人は過去10年間で約1500件発生。加害者の7割が男性で、被害者の約8割が女性。加害者の多くは60代後半から70代前半で、被害者は70代後半から80代前半。加害者の多くは介護施設で被害者となっており、自宅での介護殺人は減少傾向にある。加害者の多くは介護施設で被害者となっており、自宅での介護殺人は減少傾向にある。

仕事感覚通じず「頭貫つ自ら」一人で抱え

認知症の妻に暴力今も悔い
「仕事感覚通じず、頭貫つ自ら」一人で抱え。認知症の妻に暴力今も悔い。仕事感覚通じず、頭貫つ自ら一人で抱え。認知症の妻に暴力今も悔い。仕事感覚通じず、頭貫つ自ら一人で抱え。

大分県 朝日新聞 2018年12月15日 朝刊 33ページ

石岡の58歳被告 地裁判決

傍聴席から
石岡の58歳被告 地裁判決。傍聴席から。石岡の58歳被告 地裁判決。傍聴席から。

介護5年 生活困窮の末に

要介護の夫殺害? 87歳妻も自殺か
介護5年 生活困窮の末に。要介護の夫殺害? 87歳妻も自殺か。介護5年 生活困窮の末に。要介護の夫殺害? 87歳妻も自殺か。

- ## 介護者支援への関心の高まり
- 家族介護者支援団体の増加
 - 疾患別（一般社団法人全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会、レビー小体型認知症サポートネットワークなど）、対象別（男性介護者と支援者の全国ネットワーク、ヤングケアラー支援（日本ケアラー連盟））など多様な家族介護者支援団体の誕生。
 - 当事者、家族、支援者によって「認知症関係当事者・支援者連絡会議」の発足（2017年）。コロナ禍での介護者実態調査やWEBを通じた情報発信、政策提言などに取り組む。
 - 2020年3月埼玉県で日本初のケアラー支援条例成立。
 - 最近では、ヤングケアラー（18歳未満）の支援法制定へ向けた動きも活発化。
- 政策・実践の両面で家族介護者支援の仕組みが整備されつつある

朝日新聞 2019年11月10日 朝刊 10ページ

認知症介護 会話ロボお助

高瀬智也さん(仮名) 77歳
認知症介護 会話ロボお助。高瀬智也さん(仮名) 77歳。認知症介護 会話ロボお助。

娘なんて産まなげ

母の日記 発見 でも憎みきれず
娘なんて産まなげ。母の日記 発見 でも憎みきれず。娘なんて産まなげ。母の日記 発見 でも憎みきれず。

介護のあときある職業

介護のあときある職業。介護のあときある職業。

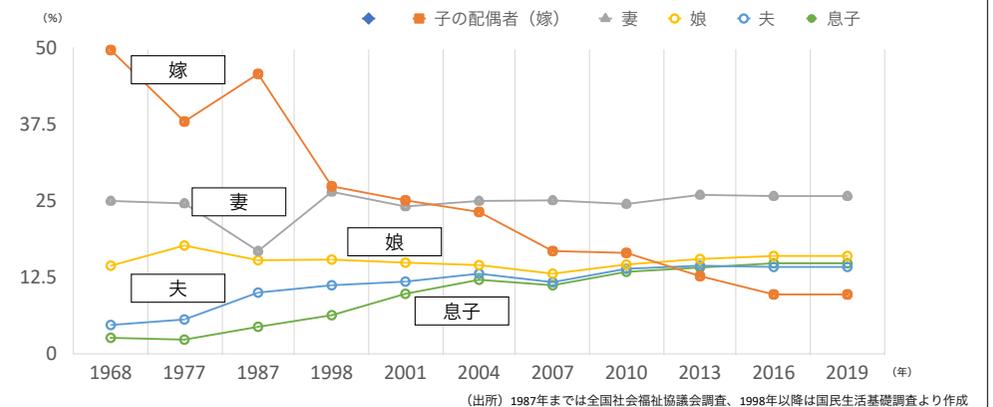
新しい家族介護の実態



全国初の介護実態調査（1968年）

- 1968年、初の全国規模の介護実態調査が行われる。「寝たきり老人実態調査」全国社会福祉協議会が実施。
- 特別養護老人ホーム全国に4500床（→2020年:57万床以上）。
- 介護者は子供の配偶者（嫁）が49%超、配偶者（妻）26%、娘が14%。「9割以上が婦人の肩にかかっている」。
- 介護する人は「若くて体力もあり家事も介護も難なくこなし、介護に専念する時間もある、何より家族の介護を担うことを自然と受け入れている」ような女性、専業主婦をモデル化。

誰が家族の介護を担っているのか？ -同居の主たる介護者の続柄別年次推移



新たな家族介護者の登場 -介護する家族の抱える問題

①男性化

介護者のうち3分の1が男性。「介護離職」が社会問題として認識されるようになる

②血縁化

主たる介護者が従来の「嫁」から「娘」「息子」に。

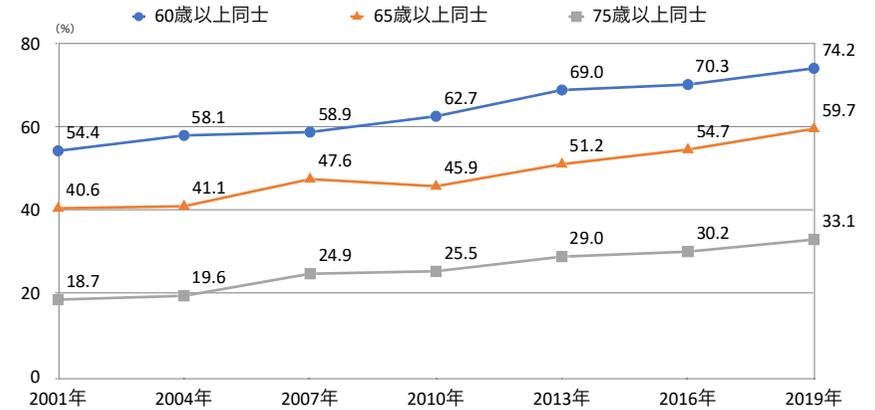
③多様化

老老介護、認認介護、ヤングケアラー、遠距離介護など。

④長期化・多重化

ダブルケア、トリプルケアなど同時多発介護状態に。

要介護者と同居の主な介護者の年齢組合せ



(出所) 厚生労働省「令和元年国民生活基礎調査」より (*2016年の数値は熊本県を除く)

ヤングケアラー 初の全国調査

2021年(令和3年)4月13日(火)

相談できぬまま…孤立

ヤングケアラーと自覚せずか

ヤングケアラーとは、家族の介護や世話を担う中高生や高校生を指す。調査によると、約4割のヤングケアラーが「お手伝い」として認識されがちで、介護専門職や家族も自覚のないままに頼りがち。支援法の制定や相談窓口の設置が各地で進む。

2021年4月13日朝日新聞朝刊

ヤングケアラー 家族の世話を担う子 中高生の20人に1人



- 初の全国調査実施
- 中高生の20人に1人
- 「お手伝い」として認識されがちなヤングケアラー
- 介護専門職や家族も自覚のないままに頼りがち
- 支援法の制定や相談窓口の設置が各地で進む

介護が必要な高齢者の実態

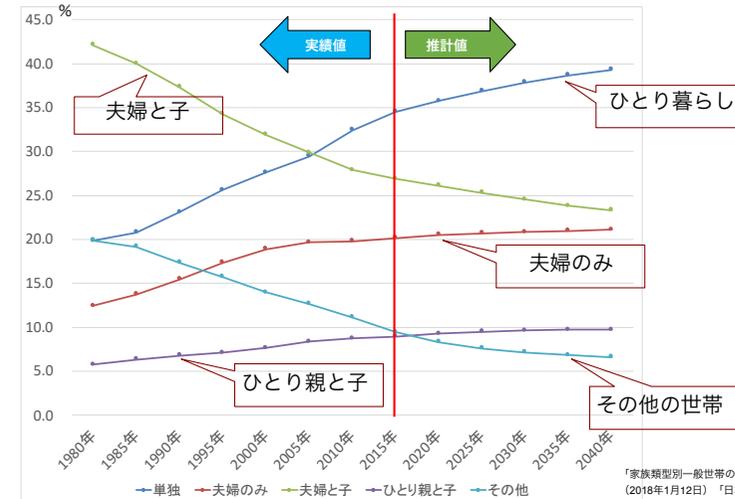
(厚生労働省「介護保険事業状況報告」2020年3月より)

- 要介護(要支援)認定者数：668.6万人
(うち男性211.0万人、女性457.7万人)
 - 日本の65歳以上の人口(3,554万人)の2割弱が何らかの支援が必要な状況
- ↑↓
- 世帯に介護が必要な人を者がいる場合、同居家族が主な介護を担う割合は約6割
 - 介護保険制度の導入以降も同居家族が介護の大半を担っている

介護が必要な人を支える公的サービスは十分に整備されているとは言い難い
そもそも、介護者支援は介護保険制度に組み込まれていない

家族介護が社会問題化する背景

家族のカタチの変容 - 家族類型の推移



2040年 世帯数推計

高齢者独居 加速

病不安 手元に携帯 夫人食事に近い

東京未婚増も背景

2040年世帯数推計は、ひとり暮らしの世帯が2015年の約1.8倍に増加すると推計されている。また、高齢者のひとり暮らし世帯は、2015年の約1.5倍に増加すると推計されている。

2040年独居世帯3割超す

高血圧学会 1000万人 家増加か

降圧目標130に下げ

2019年4月20日毎日新聞朝刊

加速する高齢者独居の暮らし (1)

— 国立社会保障・人口問題研究所の統計結果より

- 2040年には、全世帯に占めるひとり暮らし世帯(単身世帯)の割合が全都道府県で30%超。とくに、東京、神奈川、京都、大阪など8つの都道府県では40%を上回る(全国平均39.8%、東京48.1%で最も高い割合)。
- 総世帯数は、2015年→2040年で5333万世帯→5076万世帯に減少。一方、ひとり暮らし世帯は1842万世帯→1994万世帯に増加。ひとり暮らし世帯の増加率は、埼玉、千葉、神奈川など都市部で12~20%と高くなっている。
- とくに、高齢のひとり暮らしは、65歳以上で896万世帯(17.7%)、75歳以上で512万世帯(10.1%)。29の都道府県で10%を超えると推計される。

加速する高齢者独居の暮らし（2）

一国立社会保障・人口問題研究所の統計結果より

- ・ 2040年の東京では「2軒に1軒がひとり暮らし」。とくに、高齢のひとり暮らし世帯の増加が加速する。
- ・ 家族のカタチの変容の背景には、人口減少、都市への一極集中、未婚化があるとされる。とくに、都市での未婚化が著しい。
- ・ 2015年の国勢調査によると、生涯未婚率（50歳までに一度も結婚したことのない人の割合）は、全国平均で男性23.37%、女性14.06%であるが、東京都では男性26.06%、女性19.20%と全国平均を上回っている。

家族のカタチの変容

- ・ 日本の「家族のカタチ」は短い期間で大きく変容
- ・ 変化に要する時間が「短期間」であったことは、諸外国と比べて日本の少子高齢化のスピードがとても早いことをみても明らか。
- ・ （たとえば、日本の高齢化率は、1970年7.1%から1994年の14.1%までの24年間で約2倍に。2倍になるのに要した時間は、イタリア61年、スウェーデン85年、フランス115年かかっている。ちなみに、韓国は日本を上回るスピードで高齢化が進行している。）
- ・ 「家族のカタチ」の変化は、言い換えると、これまで社会の前提とされていた「標準家族（夫婦と子ども二人）」が標準ではなくなるという状況を生み出す。

対象別・領域別の社会政策

複数の政策・課題の狭間のなかでこぼれ落ちてきた問題としての家族介護

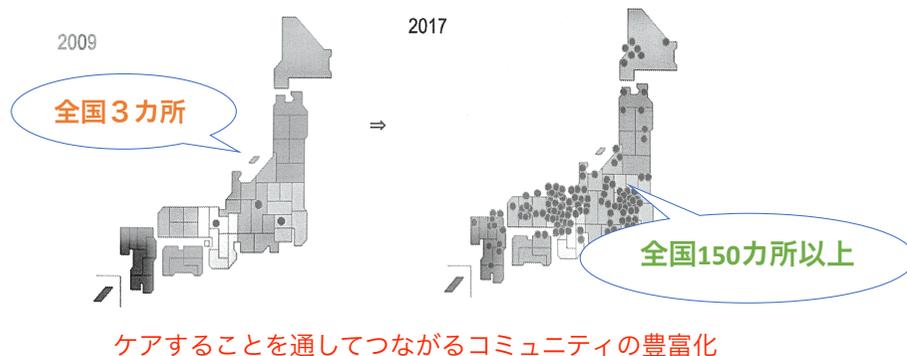


家族介護者を社会で支える仕組み

男性介護者と支援者の全国ネットワークの実践事例

男性介護者の会や集いの増加

- 2009年から2017年の変化



Male caregiver and supporters' nationwide network

男性介護ネットとは？

すでに介護者の3人に1人は男性が占める時代。男女が共に介護を担う社会という視点から見れば喜ばしいことには違いありません。

しかし他方で、男性介護者は、家事や介護のスキルを獲得する機会に乏しく、孤立化しがちであると指摘されています。

私たちは、介護する側もされる側も、家族介護者の男性も女性も、誰もが安心して暮らせる社会になるように、次の目的で活動しています。

- 1 各地で誕生しつつある男性介護者の会や支援活動について、相互の交流や情報交換を促進し、また、男性介護者の孤立の解消と地域を基盤とした男性介護者相互の支え合いの仕組みづくりを支援します。
- 2 家族介護者支援についての調査研究や政策提言も、積極的に行います。

男性介護者と支援者の全国ネットワーク (略称: 男性介護ネット) は2009年3月に発足し、男性介護者と支援者の全国的なネットワークづくりをすすめています。

ひとりじゃない。生きる勇気がわいてきた。

◎入会案内◎

◎「男性介護ネット」の取り組み

- 男性介護者の調査・研究の実施
男性介護者の介護実態を明らかにしながら、介護保険など介護支援制度のあり方や介護と仕事の両立、介護と経済的困窮などの介護に関する課題・研究を実施し、要介護者支援と共に家族介護者支援の必要性について積極的な政策提言を行います。
- 体験記の募集・発行
介護者の「体験記」は社会の共有財産です。「体験記」を募集し、その中から興味深い体験から学ぶ、行く手を明るくしてくれました。読者のように手近に置いて、繰り返し読み直そうと思っています。(読者の顔ぶれ)
- 交流会・ワークショップ
全国の介護実態を明らかにしながら、介護保険など介護支援制度のあり方や介護と仕事の両立、介護と経済的困窮などの介護に関する課題・研究を実施し、要介護者支援と共に家族介護者支援の必要性について積極的な政策提言を行います。
- 情報発信
会報「男性介護者ネットワーク通信」を発行し、各地の男性介護者の会や支援活動の取り組み、介護保険制度、介護の現場のアドボカシーなど、様々な情報を紹介します。ホームページには、情報発信の他にも、男性介護コラムや、相談・交流の投稿ができるコーナーも設けています。

男性介護ネット
男性介護者と支援者の全国ネットワーク
<http://dansen-kaigo.jp/>

男性介護者と支援者の全国ネットワーク (略称：男性介護ネット)

- 2009年3月京都で発足
- 会員1000人 (在籍数700人弱:2020年3月現在)
- 小さいが、47都道府県に1人以上の会員が在籍
- 取り組み内容
 - 男性介護者に関する調査研究、交流会・ワークショップの開催
 - 「介護体験記」の発行、情報発信
- 「女性であれば当然視され、社会からは支援の対象として認知されることもなかった生活の事柄が、いざ男性が対象となるとなぜ社会問題となるのか？この社会に深く根を下ろすジェンダー規範を乗り越えていくにはどうすればいいのか。この課題に男性たちのケアのコミュニティはどう関わり得るのか？を問い続ける10年間の活動だった」 (男性介護ネット事務局長 津止正敏さん)





介護体験記への反響

- ・「父（91歳）も母（87歳）を介護している。父にも読んでほしい」
- ・「父の気持ちを知りたい」
- ・「父（91歳）と二人で母（84歳）を介護している。父が読みたいというので」
- ・「娘の嫁ぎ先でも同じようなことが」
- ・「介護の学習の旅行や集会には出席できにくい状態である。また、話し合う友人もほとんど他界。講演会での医学的な一般的講演も参考になるが、ピンときにくい。体験記を読みそれぞれの貴重な介護体験が心をうち、行く手を明るくしてくれました。辞書のように手近において繰り返し読もうと思っています」（男性、89歳）

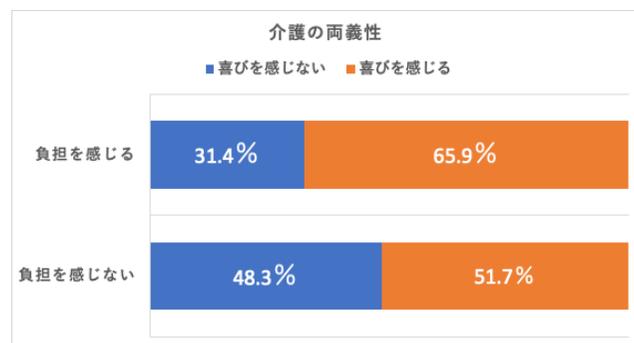
「男性介護者」との出会い

- 「男性介護者〇〇〇〇」と記した名刺を配る男性介護者
- 家族の介護を続けるためには、自分自身が心身ともに健康でなければならないと「健康体操」を考案された男性介護者
- 要介護度が高いほうが、介護歴が長いほうが先輩！？
- 涙ながらに自らの介護体験を語る男性介護者
- 「鬼の形相の介護」から「まさこちゃんへの介護」へ

ケアするコミュニティの実現に向けて

ケアの両義性

- 「たしかに介護は辛い」でも「辛いだけじゃない」



『男性介護白書』(2007)より

介護の経験がもたらしてくれるもの...

できれば認知症にならないほうがいいですし、認知症の人の介護など経験しないほうがいい。私だって当然そう思います。

しかし、もし認知症に巡り合ったらなら、その経験は必ず自分の人生にプラスにすることができる。以前よりもきっと深い人生を送れるようになる。

だから私は認知症介護の経験を悲しいだけのこと、嫌なことだけのことと決めつけるのは間違っていると思う。

(高見国夫「本人も家族も幸せになる介護」『文藝春秋』2017年8月号)

「介護のある暮らし」という「新しい生き方」

- ・介護はつらくて大変、でもそれだけではないのかもしれない。
- ・もしかすると、「介護のある暮らし」こそ、人生をより豊かにしてくれる「新しい生き方」の一つなのでは？
- ・介護体験記に寄せられる思い、介護者の会で自らの失敗談を泣き笑いとともに入れてくださる男性介護者は、そのことに気づいた人たちなのではないだろうか。
- ・生産性や効率性ばかりを追い求めるコミュニティではなく、相互に依存し合う関係＝〈持ちつ持たれつの関係〉を生み出し、依存することを肯定するコミュニティづくりを目指してわたしたちは何ができるのだろうか？

参考文献 ご関心ある方はぜひどうぞ...



『男が介護する 家族のケアの実態と支援の取り組み』
津止正敏 著 中公新書 2021年